
真逆な二人

神童サーガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真逆な二人

【NZコード】

N4326F

【作者名】

神童サーチガ

【あらすじ】

私は、友人の美少年一人に告白されてしまいました。でも、どちらも好きだから・・・。

「会長・・・なんですかー？」

「・・・膝枕」

とある学園の生徒会室のソファに、座ってる女の子がいた。その女の子の膝に頭を乗せてる男の子。

「『ひなにむらは・・・・・』って何してるんですか?」

扉を開けて入つて来たのは、敬語の男の子だった。

「ガイくん・・・助けてー」

女の子は、敬語の男の子ガイに話し掛けた。

「メイの膝から退きなさいショウウくんーー！」

女の子メイの膝にいる少年ショウウを退かすガイ。

「うるさいよ。バカ」

「バカじやありませんから……。」

またケンカをし始めた二人。
メイは、迷惑そうにする。

「駄洒落ですか？」

「どーしたの? ガイ」

「元からだけど、頭が壊れたんだよ」

ケンカを止める気配は無い。

「ケンカを続けるなら帰るよ——！」

「すみません。メイ」

「・・・僕は悪くない」

憲りないシュウに苦笑いのメイ。

「で、ビーしたの? ガイ」

「いえ・・・その・・・」

真っ赤になりながら、吃るガイに、ん~、と首を傾げるメイ。

「・・・メイ。お茶」

「はいはい・・・」

ガイが言おうとしたことに気付いたシユウは、メイを追い出した。

「良い度胸だね。僕のメイに告白なんて」

「こつから、シユウくんですか・・・」

最初つたからだよ、と鼻を鳴らしながら言つたシユウ。

「メイは、ボクのですよ」

「・・・黙れ変態」

変態じやありません、と言つた途端に入つて来たメイ。

「またケンカー？」

「違います」

メイの言葉に、直ぐさま否定したガイ。

「そーいえば話つて？」

「あの・・・ずっとメイが好きでした」

ガイの突然の告白に赤くなるメイ。シユウは機嫌が悪い。

「えつとー」

「メイ。僕も好きだよ」

「うえつーーー？」

一人から一人に増えた告白。茹でタコ以上に真っ赤なメイ。

「私には、どちらが好きとか分らないよー。一人共好きだもんー」

メイは、二人を均等に愛してるようだ。
なんと贅沢な迷いなことだ。

「二人と付き合つてダメだよねー」

「二股ですか?」

「馬鹿と一緒にるのは嫌だよ」

だよねー、と悲しい顔で言ったメイ。

「決められないから嫌いになるーーー!」

メイの発言に一人は、はあ!ー?と、驚いた。

「どっちが良いー?嫌いか好きかー?」

悪魔のような笑みを浮かべたメイ。

でも、メイが一人を嫌いになんてならない。

「だつたら癪だけど、一人で良い・・・」

「ボクもです」

「どうやら気が付いて無い一人でした。
メイの作戦勝ちつてといいんです。」

「片方を愛せば、今の関係が崩れちゃう・・・そんなの嫌だもんー」

誰もいない部屋に、嫌という位に響き渡るメイの声。
好きだからこそ、微かな確率を取ったに過ぎない。
今の関係を崩さない方法を・・・。

(後書き)

まさかの展開でしたね。どうりでも付き合ひつなんて。メイは魔性の女だね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4326f/>

真逆な二人

2011年1月15日21時13分発行